
令和5年度 事業計画(案)

特定非営利活動法人 市民協働ネットワーク長岡

1. 運営に関する事項

1-1. 役員

第3号議案 任期満了に伴う役員を選任 を持って決定します。

1-2. 会員

※令和5年3月末時点

正会員		賛助会員	
個人	40名	個人	個人64名
団体	5団体	団体	23団体

2. 令和5年度事業計画

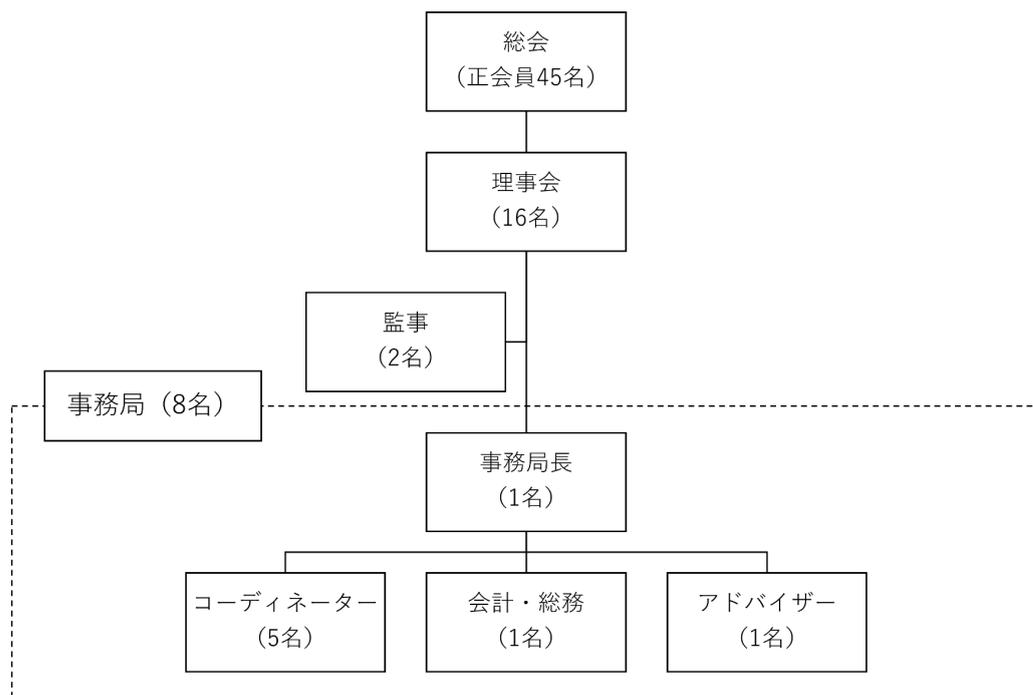
● 事業方針

法人設立10周年を終え、令和5年度は過去からの蓄積を活かすとともに、新たな時代に向けたビジョンを示すことが求められてきます。市民活動や地域活動に主体的に関わることが自己肯定感や安心につながるという「社会的処方」は、その一つだと考えています。

長岡市の協働が2025年までに目指すビジョン「つながりがはぐくむ豊かな暮らし～共に創る未来へ～」の実現に向け、当法人はその基盤となる人と人のつながりを生み出す拠点として、人・活動団体のネットワーク化、ノウハウ・情報の共有、ヒト・モノ・カネといった活動資源へのアクセス改善などにより、地域に協働の機会を生み出し続けていきます。

今年度は、さまざまな社会活動・地域活動が再起動することが見込まれていますが、当法人としてウイルス禍の中で取り組んだ動画配信などのデジタル技術も活用しつつ、新時代に合わせた市民や団体の活動方法について各団体と共に模索していきます。

● 運営体制



- ❖ 事務局長1名(非常勤)、コーディネーター5名、会計・総務1名、アドバイザー1名(非常勤)を設置。

※4～6月決算作業の補助・引き継ぎのためその期間コーディネーターが増員予定。

2-1. 市民協働センター運営事業（受託事業）

(1) 活動支援業務

市民活動団体や市民の市民活動に関する相談に対応。また、団体や市民が円滑に活動できるよう、知識習得の場や専門家サポートの提供、事務局支援を行う。

① 市民協働センター相談窓口の運営

平日午前9時～午後6時（※土日祝日または時間外の相談については事前予約）
コーディネーターを最低一人は常駐。各種相談のほか、団体登録、チラシ設置、WEB掲載、フェスタ、まちなかの講座参加ほか協働センターの提供サービス・事業の説明・利用申し込みに対応する。
オンライン等、センター窓口でなくとも相談できるよう引き続き体制の整備を行う。

② 団体個別相談の実施

コーディネーターが、担当支所地域や担当団体を持ち、関係機関と連携しながら団体に寄り添った支援を行う。必要があれば支所地域などでの出張相談窓口の開設、オンライン相談対応なども実施する。
相談は協働センター窓口で対応するだけでなく、必要に応じて現場訪問、団体の会議への参加など柔軟に対応する。
組織運営上の課題解決や、発展のために高度な支援を要する団体には、税務、労務、経営、IT活用など各分野の専門家を無償で派遣する団体出前相談を実施する。

③ 相談内容のデータベース化、ノウハウ蓄積

団体、個人、事業者等、協働センターに寄せられた相談内容を記録。過去の相談記録をもとに、よくある質問や他団体が応用できる事例・ノウハウを、講座や、コラムにして広く発信する。

④ 組織運営講座の開催

コーディネーターが講師を務め、市民活動・地域活動・NPO活動に役立つ基礎講座を開催。会場参加・オンライン参加・アーカイブ視聴など、複数の方法で参加可能に。アーカイブはその後にも相談対応の中などで希望者がいれば視聴可能にする。講座内容に関しては、広くニーズ調査をしながら検討する。
また、過去に蓄積したアーカイブ動画を活用する方法も検討。

⑤ センター施設・サービスの活用

協働センターの施設および貸出備品、情報・図書コーナーの整備・PR。備品管理体制やルールの見直しを適宜行う。

(2) 情報の受発信業務

市民活動団体の活動PRにあたって、情報誌やホームページ・SNS等各種媒体を用いて情報の発信を行うほか、相手からの情報を受け取れるようにし、双方向での情報交換を行う。

① 市民協働センター情報誌「らこって」発行

市民や活動団体にスポットライトを当てる月刊の情報誌。A4・4P・3,000部の発行を継続。誌面は毎月郵送にて希望者・団体等に発送。その際に、希望する団体のチラシ等を同封する。誌面はWEBサイトにも掲載し、SNSで情報発信を行う。内容は2021・22年に引き続き特集記事を中心に展開。

②コミュニティFMのスポンサー番組「つながるラジオ」の放送と取材コンテンツの活用

毎週月曜日17時～、月4回、FMながおかにて「つながるラジオ」を放送。市民活動のノウハウ発信、団体ピックアップ、SDGsに取り組む団体・事業者の紹介、市民活動プレーヤー紹介の4つのコンテンツを放送。取材内容をまとめ情報誌「らこって」、WEBサイト「コライト」に掲載する。また、放送音源をインターネット上にも公開する。

③協働センターホームページ「コライト」の運営

まちづくりや地域づくり、ソーシャルアクション、SDGs等に関する取り組みをしたい、知りたい、広めたい人たちに有益な情報が集まるポータルサイトとなるよう、多様な情報を見やすく掲載していく。また、SEO対策を意識したサイトづくりをすすめる。

④ソーシャルメディア管理・運営（Facebookページ、twitter、Instagramアカウントの運用）

情報を届ける手段としてSNS（Facebook、twitter、Instagram）で積極的な情報拡散を行う。SNSユーザーとの交流・情報交換の方法についても取り組んでいく。

⑤協働を啓発する取り組み

2022年は通年、各地域で連続開催したパネル展を、期間・回数は再検討して実施。実施にあたっては、展示の交渉を通じ、地域の関係機関と情報交換することで連携を深める。

(3)協働促進・事務局支援業務

長岡市内の市民活動団体や行政、企業、個人とのネットワークを構築しながら、協働しやすい環境づくりを行う。また協働で運営されるながおか市民活動フェスタおよび、越後ながおかまちの駅ネットワークの事務局運営を担う。

①市民活動団体、事業者等の活動状況の把握

長岡市内の市民活動団体のうち希望者を協働センター登録団体として管理。登録情報の定期メンテナンスを行う。市内事業者の社会貢献・地域活動、SDGsへの取組状況や、市民活動団体の発注先となる専門業者（印刷会社、デザイナー、WEB、土業など）についての情報収集を行う。

②協働マッチングリスト等の運用

協働センター登録団体のうち、他組織に協力・貢献できる事項について公開を望む団体を取りまとめたリストを作成。その内容を紙媒体、WEBサイトにて広く発信する。
特に寄付募集や、メンバー募集についてはより目立つ形で情報を集め広く発信したい。

③一般向け講演会の開催

市民に広く、まちづくりや地域づくり、ソーシャルアクション、SDGs等への関心を持ってもらえるような企画を実施。開催にあたっては、可能な限り関係機関・中間支援機関（社会福祉協議会やシルバー人材センター、ながおか若者・しごと・機構など）などと連携し、相互にメリットのある機会とする。

④市民活動フェスタ実行委員会事務局の運営

実行委員会の意見を尊重し、参加団体同士の交流が生まれるようなイベントとなるようにする。

⑤越後長岡まちの駅ネットワーク事務局の運営

補助金の見直しの過程という中で、参加駅や役員の意見を尊重しつつ今後のネットワークの形を検討していく。

2-2. 情報コミュニケーション事業(自主事業)

市民活動に関わる方々に役立ち、その振興に資する情報を長岡市内外に向けて発信する。協働センターからの情報発信の補足を行うほか、法人事業に関する情報コミュニケーションにも取り組む。

(1) 当法人の情報公開

透明性・信頼性のあるNPOを目指し、法人ホームページ等にて、法人の基本情報、年間報告資料、支援者情報や、助成先の情報、自主事業の告知や報告等の情報公開を行う。

(2) 市民活動・NPO等の情報拡散

協働センターに集まった市民活動団体の情報・告知を、広く市民に拡散するため以下の媒体を活用する。

- (1) ながおか協働メールマガジンの発行(月2回) 登録者576件(2023年3月末時点)に送付
- (2) 紙媒体・ながおか協働かわら版の発行(月1回) らこって発送先665件(2023年3月末時点)に発送
- (3) SNS(Facebook、Instagram、Twitter)を活用した情報拡散

2-3. 人材ネットワーク事業(自主事業)

市民活動のきっかけをつくることを目的とし、人がつながる場・企画をつくる。

(1) 市民交流イベント「のもーれ長岡！」の開催

学び、語り、飲み、ジャンルを超えてつながる異業種異分野多世代交流のできる交流会で、つながりづくり、仲間づくりの機会を創出する。

- 年6回、基本的には、奇数月の第4金曜日に実施。
- 月別に事務局内の担当を付け、企画から運営を行う。また必要に応じて外部からのアドバイスや協力を求め多様な視点で集客力あるイベントを実施できるように努める。
- オンラインを上手く活用して客層の広がりをつくる。

スケジュール(予定)

回	日時	目標集客数
72	5月13日(土)17:00~19:00	各回30名以上
73	7月8日(土)19:00-20:40	
74	9月22日(金)19:00-20:40	
75	11月17日(金)19:00-20:40	
76	1月26日(金)19:00-20:40	
77	3月22日(金)19:00-20:40	

2-4. ファンドレイジング事業(自主事業)

地域で活動するNPO・市民活動団体の資金面を、地域の人たちが支える仕組みとしてのコミュニティファンド「ながおか協働基金」を軸に、地域の魅力増進や社会課題解決に対して、多くの人が多方面から関わることができるような施策を講じる。

(1) コミュニティファンド「ながおか協働基金」の運営

市民活動に参加する方法として「寄付」という手段を提供し、長岡地域内でお金が循環する仕組みをつくる。そして支え合える地域づくりを目指す。

地域をより良くするために頑張る人たちを、様々な寄付のかたちで支援します		
ながおか協働基金		
社会課題解決コース	夢の種応援コース	冠基金
市民協働ネットワーク長岡におまかせ	選定に関わって支援	寄付者のお名前、想い等を冠した基金を創設
マンスリー寄付 (月額一口300円からの定額寄付)		100万円から。 寄付者の要望をお聞きし、基金をコーディネートします
ワンタイム寄付 (金額や時期を問わない、一度限りの寄付)		

①社会課題解決コース

R4年度はマンスリー寄付7口(300円/口)、ワンタイム寄付4名。355,417円の寄付が集まった。資金は社会課題解決に向けて活動する団体への支援金として活用する。

②夢の種応援コース

R4年度はマンスリー寄付11口(300円/口)、ワンタイム寄付1名。43,500円の寄付が集まった。夢の種プロジェクトでの助成・運営資金として活用。

③冠基金

- ③-1 笑顔いきいきファンド
- ③-2 「夢ハウスけやき」基金

(2) 夢の種プロジェクトの企画運営

アイデアコンペの開催を通して、地域・社会貢献活動への機運を高める。また受賞者に贈呈する活動支援金は、会費、寄付やチャリティーから拠出することで、市民が多様な形で本取り組みに関わることができる事を目指す。

通年に渡り資金集めを行う。秋頃にアイデア募集開始、審査を経て、翌年1月の「のもーれ長岡」にて一般参加者を交えたプレゼン最終審査、受賞イベントを行う。

(3) 会員および寄付サポーター獲得

当法人の活動に理解・共感を持った団体・市民を増やす。

- 法人パンフレットやウェブサイト、SNSを活用して加入の呼びかけを行う。
- イベント会場や各所訪問時に加入の呼びかけを行う。

2-5. コーディネート事業(自主事業)

他団体からの事業・業務の相談や依頼のもと、プロジェクトチームを組み事業協力やファシリテーター派遣などを随時実施。協働を更に推進するため、きょうどう通信を利用して、身近な協働の発信とコーディネートを行う。

(1) 各種団体事業への協力・協働

NPO法人市民協働ネットワーク長岡に対する業務依頼や相談に対し、随時事務局内で実施を検討。

継続(見込み)

依頼者	事業名
中心市街地活性化推進協議会	長岡市中心市街地活性化推進協議会 まちづくり部会
ながおか若者しごと機構	理事会
子ども・子育て課	子ども・子育て会議
長岡大学	「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」推進協議会
長岡市教育委員会	長岡市教育委員会事務評価委員会
長岡市政策企画課	東山通信会議
長岡大学 鯉江ゼミ	長岡大学地域活性化プログラム
長岡市人権・男女共同参画課	ながおか・スミレプロジェクト
長岡市環境政策課	SDGs環境教育事業
長岡市人権・男女共同参画課	女性向け研修の企画・運営業務

(2) 今日どう? 通信の執筆管理

身近な協働をテーマとしたコラムを理事と事務局スタッフのリレー形式で執筆。発信する。

- 執筆記事は協働ネットワークのメールマガジン、Facebook、法人ホームページ、コライト活動報告にて情報発信する。
- 情報発信は情報部会、執筆管理はコーディネート部会が行う。

2-6. 研修事業(自主事業)

協働センター事業で行っているスタッフが講師を務める講座の認知度・参加者が増えてくる中で、他団体からの講演・講座依頼も増えて来ている。より広く依頼をもらえるよう、広報強化および、講師派遣のメニュー化を行う。

継続(見込み)

依頼者	事業名
長岡市社会福祉協議会	ボランティア大学 基礎講座
新潟県市町村総合事務組合	一般職員研修
中央公民館	地域学びコーディネーター講座